

# 馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

《基本理念》 子どもから高齢者まで、健やかな暮らしを生涯支える村づくり

## 基本目標1【地域を担う人づくり】 P22

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 地域福祉の意識醸成	健康福祉課	<b>1. 地域福祉に関する情報発信や周知活動</b>  ホームページや村内広報、SNS等を積極的に活用し、地域福祉に関する情報発信・周知に努めます。	【福祉】 地域福祉計画の取組状況と評価については、行政HPを活用し公開した。個別のイベントや講演会等については、村内放送や広報で案内するなど、積極的な広報・周知に努めることができた。また、施設利用や助成事業のガイドブックを冊子媒体で作成・配布し、全村民が活用できるよう努めた。	【福祉】 地域福祉計画の取組状況と評価については、行政HPを活用し引き続き公開する。また、助成事業等を周知するガイドブックについては、内容の見直しを行い、引き続き全村民が活用できるよう作成・配布を行う。	A	A  ・特段の意見なし
	健康福祉課 教育委員会 総務課	<b>2. 福祉教育・人権教育の推進</b>  福祉意識・人権意識の醸成を図るため、地域住民の学ぶ機会として福祉や人権をテーマとした講演会や体験学習、イベント等を開催します。また、学校教育の中で福祉に関する授業を行うなど、次代を担う子供たちへの意識づくりにも取り組みます。	【総務】 馬路小学校にて、人権の花運動を実施し、児童26名、馬路村人権擁護委員1名の参加を得られた。 【福祉】 本年度は馬路中学校1年生を対象に、本村の福祉サービスや地域での支えあいについて出前授業を行った。これをきっかけに、生徒自ら地域への関わり方について考え福祉意識の向上を図ることができた。敬老会では、家庭道場で来村している高知大学医学部の学生による認知症についての講話を実施。漠然とした不安などを周りと共有することで、日常で感じる孤独感の解消を図った。 【教委】 筑波大学教授による「友だち親子の光と影」人権研修会開催、30人参加。 反抗期のない子供の増加。親子関係、友達関係も変化した現状と人権課題について学習 小学校：手話教室全学年2回他福祉学習 低学年2回、中・高学年1回 中学校：福祉出前講座2回実施、道徳の時間35時間 全校道徳参観日の実施 聴覚障害者理解と交流を深めている。 認知症キッズサポーターの養成	【総務】 引き続き、人権の花運動を実施し、家族や友人を思いやる心を花植えや大切に花を育てることを通して、育む取組を行っていく。 【福祉】 職員向けの研修、住民向けの講演会や体験学習も実施していく。多くの住民が学べる機会を創出するため、敬老会や文化祭等のイベントに合わせた実施も検討する。 【教委】 人権研修会の開催 学校教育では高知県機関や福祉団体、村社会福祉協議会等の支援のもと、引き続き、福祉学習、人権学習に取り組む。	A	A  ・新たな取組が行えている ・学校からも各関係機関へ積極的に連携し、しっかり取り組んでいる。 ・働き世代へのアプローチ強化も必要である



# 馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

## 基本目標2【誰もがつながる地域の輪(ネットワーク)づくり】

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み込んでいる B・・・ほぼ組み込んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み込んでいる B・・・ほぼ組み込んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 交流機会の推進	全課 教育委員会	<b>1.顔の見える関係づくり</b>  各地区の地区長や民生委員・児童委員と協力して、地域の活動を支えます。また、窓口や訪問現場での対応をすることで地域住民との対話を重視し、お互いが信頼できる関係づくりにも取り組みます。	【福祉】 複合化した住民ニーズに対応するため引き続き既存の会を活用し、属性を問わない相談窓口として各関係機関と連携し、包括的な支援体制に努める。 【全課】 訪問や地域行事、あったかふれあいセンター事業、会議等で得た情報を担当課や関係機関と共有し、顔の見える・支え合える関係づくりに努めている。 【支所】 あったかふれあいセンター事業や百歳体操、会議等への参加者らと対話して得た情報を、地区長や民生児童委員、集落活動センター等と共有し、支え合える関係づくりに取り組んでいる。 【教委】 学校運営協議会の活動拡大に取り組めた。	【福祉】 横断的な連携により、適切なサービスに早期につながられるよう取組を継続する。 【全課】 訪問時の声掛けや地域行事への参加を通じて、顔の見える関係づくりに継続して取り組む。特に移住者など住民同士と、行政や関係機関とのつながりも強化・拡大していく。 【支所】 地域内において手助けや見守りが必要な高齢者の暮らしを、住民、あったかやデイサービス、地域内の事業所、民生児童委員等の関係者で情報の共有を行いながら、見守り支援していく地域づくりに取り組む。 【教委】 村全体で、住民同士の信頼関係向上のため、自ら声かけに積極的に取り組む。	A	A  ・特段の意見なし
	地域振興課 健康福祉課 教育委員会	<b>2.世代間交流の促進</b>  村内で展開される各種行事やイベント、座談会など、村に住む様々な人をつなげる交流の機会をつくります。地区ごとの世代間交流を積極的に進め、緊密な地域の輪を創出するとともに村内全域に展開します。	【福祉】 一斉清掃や防災活動を中心に世代間を超えた交流ができる機会を創出することができた。 【教委】 馬路・魚梁瀬各地区で地域住民が主体となり、老若男女問わず参加できる地区運動会を開催され、村全域における大きな世代間交流の場として機能した。	【福祉】 地区ごとの活動を支援しながら、世代を超えた多くの住民が積極的に活動・交流できるよう協力していく。 【教委】 年齢、性別、職場などあらゆる垣根を超えた交流の場として機能でき、より多くの方が参加されやすい運動会の開催ができるよう支援していく。	A	A  ・孫のいない人でも運動会等のイベントにも参加してくれているので、送迎等があれば良い。 ・細かい所を気にかけてあげられるような取組みをしていきたい。

馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
② 交流拠点の確保	健康福祉課	1.あったかふれあいセンター事業の充実 馬路村社会福祉協議会と連携し、既存のあったかふれあいセンター事業を充実させ、誰もが最期までいきいきと自分らしく住み続けられる地域づくりをめざします。また、集いの場が介護予防の場になっていることなど、本事業の担う役割を全世代に周知するとともに、本事業への理解の促進に努めます。	【福祉】集いの場への参加や、住宅改修を行うなどフレイル予防や転倒リスクの軽減につながった。対象者自身が自己の体を理解し、家族と共に運動の必要性を再確認し、意識改善を図ることができた。特定地域づくり協同組合の利用により慢性的な人材不足の解消にも積極的に取組んでいる。併せて、後期高齢、国保の各担当とも連携し、健康づくり事業の場としても活用した。	【福祉】高齢者の訪問・生活実態把握を引き続き行い、利用に繋げていく。また、高齢者運動機能等向上事業を活用し、理学療法士による百歳体操へのアプローチを継続して実施予定。利用者の様子について月1回実施する支えあい会での情報共有を行い適正なサービス利用の検討を進める。	A	A ・集いの場に70代の参加が見られるようになった。 ・男性の数が少ないので、男性の数を増やしていきたい。
	地域振興課 教育委員会	2.既存施設の活用 馬路村集會センターうまなびや村民グラウンド等の村有施設を活用し、特に若者を中心とした交流を積極的に進めます。今まで関係のなかった者同士が交流することで、新たな事業の創出や展開に発展させます。	【教委】スポーツイベント(職域ソフト、スカッシュバレーボール大会等)を開催し、若者や各職場の垣根を超えた交流により親睦を深めた。	【教委】生涯学習及び社会体育イベントの開催を広く周知し、今後を担う若い世代が参加できる事業を実施し、交流親睦を深める場を創出する。	A 既存施設を活用した若者同士のコミュニティ形成・交流機会の確保の取組を実施することができた。今後については、気軽に利用できるということを周知し、テーマ型のコミュニティの場として住民自らが施設を進んで借り上げ利用することを目指していきたい。	A ・まかいちよって家・深山荘・うまじ温泉がコミュニティの場として機能している。
③ ワークと行政・関係機関のネット	全課 教育委員会	1.地域住民とのネットワークづくり 日常のあいさつ、声かけなど「あたりまえ」のことを行政職員が習慣化することから始め、地域活動やイベント等への積極的な参加を通して地域住民との信頼関係を構築するとともに、地域と行政が一体となった支えあいの形をめざします。	【全課】全職員であいさつ、声かけの実施に取組んでいるほか、地域活動にも積極的に参加している。また、あいさつや訪問時に気になることがあった場合、関係課・機関とも迅速な情報共有が行っている。 【建設】水道検針時に、住民への挨拶や声かけを行っている。その中で、使用量の大幅な変化や漏水の疑いが見受けられる場合には、再度の声かけや連絡を実施している。また、ポストへの投函物が溜まっているなど気になることがあれば、健康福祉課へ情報共有を行った。 【支所】住民への声掛けやあいさつを積極的に行い、顔を見てコミュニケーションが取れるよう取り組んでいる。 【教委】地域活動への参加に取り組んでいる。情報共有にも努めた。	【全課】地域住民同士や各団体との関わり合いからつながりが生まれ、必要とする支援が受けられるよう取組を継続する。 【建設】水道検針時に継続した声かけ等を行う。また、変化等があれば関係機関と情報共有を図っていく。 【支所】信頼できる関係性の構築、また行政や関係機関へつなぐ役割を強化していく。 【教委】地域住民同士や各団体等との関わり合いからつながりが生まれ、必要とする支援が受けられるよう取組みを継続する。	A 地域行事や訪問現場での対応等の機会を活かした関係づくりに取り組んでいる。行事への積極的な参加や現場対応時の対話の取組を進める。	A ・特段の意見なし

# 馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

## 基本目標3【誰もが安心できる支援の実施】 P26

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み込んでいる B・・・ほぼ組み込んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み込んでいる B・・・ほぼ組み込んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	健康福祉課	<b>1.高齢者への支援</b> 基本計画:中芸広域連合高齢者福祉計画・介護保険事業計画  いきいき百歳体操等の介護予防事業を通じて、高齢者が社会参加しやすい環境づくりに取り組めます。また、高齢者を地域全体で支え、最期を迎えるまで在宅で生活してもらえるよう中芸広域連合や馬路村社会福祉協議会等関係機関との連携強化に努めます。	【福祉】 高齢者のスマートフォン使用に向けた端末補助を実施し、スマートフォンの利用促進に向け広報折込チラシにて周知を行った。また、本年度は高齢者の移動手段確保事業として東部交通バス等で利用できるICカードの購入補助を実施し、公共交通の利用促進に向け周知に努めた。あったかふれあいセンターを主とした介護予防事業を継続的に実施するとともに看護師や保健師による訪問事業を中心に生活実態の把握及び支援に努めた。	【福祉】 移動手段確保に向け、継続して支援が行えるよう取り組んでいく。また、田野病院と連携し、高齢者の運動機能等の向上に向けた訪問及び生活・運動指導事業を昨年に引き続き実施。一体的実施事業は、フレイル予防をメインテーマに展開予定。	A	A  ・訪問させてくれない方等へのフォローアップをどうするか検討が必要。
	健康福祉課	<b>2.障害者への支援</b> 基本計画:中芸広域連合高齢者福祉計画・介護保険事業計画  障害の有無にかかわらずお互いの個性と人格を尊重しあいながら、安心して生活できる環境の整備を進めます。また、農福連携など新たな就労の形を模索するとともに、障害者に寄り添った伴走型の就労支援にも取り組んでいきます。	【福祉】 地域づくりサポーター研修にて、障害の有無に関わらず中芸地域で暮らしていくこと等について意見交換を行った。また、中芸広域連合が発行している障害者の集いの場を紹介している「まちの応援団」かわら版と障害者の就労について紹介している「中芸地域で暮らす・働く」リーフレットを現在更新中。これらに、村内での活動も掲載。	【福祉】 引き続きニーズに対応できるように、情報収集を行う。農福連携については中芸広域連合を中心に取り組んでおり、その取組を参考に研究を進める。また、農福だけにこだわらず、障害者の雇用の場についても検討を進める。	A	A  ・特段の意見なし
	健康福祉課 教育委員会	<b>3.子育て世代への支援</b> 基本計画:馬路村子ども・子育て支援事業計画  村の宝であり次代を担う子どものことを第一に考え、男女とも育児と仕事の両立を地域全体で支えます。また、子どもを持ちたいと考える夫婦や子育てを行う世帯のニーズ把握と気軽に相談できる体制を整え、夫婦が子育てをしたいと思う環境づくりに努めます。	【福祉】 利用者にも意見を聞き、置いていない知育玩具や音のなる玩具、絵本と本棚を増やし、絵本を選びやすく、興味を持てるように整備した。またカーテンがついていない窓にカーテンを設置し、プライバシーに配慮した授乳スペースを整備した。赤ちゃん用品支給事業を行い、保健師などの専門職にも気軽に相談できる体制を整えている。 【教委】 教育相談の実施や、保・小・中学校、保護者との情報共有で連携を深めている。給食費等の補助を行い、子育てしやすい環境に取り組んだ。	【福祉】 支援を継続する。また、伴走型相談を実施することにより、妊娠期～出産期～子育て期を切れ目なく支援する環境づくりにも取り組む。 【教委】 子育て環境、相談窓口の周知、体制整備に取り組む。	A	A  ・子育ての見本がいなくなっている。 ・相名や東川地区などの遠い場所から低学年の小学生がイベントなどに参加するのは難しい。高齢者だけでなく子どもの送迎も検討をお願いしたい。

馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	全課教育委員会	<b>4.就労の支援</b> 自立した生活の基盤となる就労の安定について、一人ひとりの心身の状況に応じた就労や活躍の場を確保するため、福祉分野のみならず村内の幅広い産業分野の事業所等と連携するとともに、情報の共有を図ります。	【福祉】 就労支援に向けた生活の立て直しについて、村社協、診療所のほか県・奈半利社協等とも連携し情報共有や支援の方針の検討を重ね取り組んでいる。 【支所】 山村留学家庭などの移住者の生活基盤を確立するため、就労の相談や斡旋、事業所へ取り次ぎなど支援している。	【福祉】 一人ひとりの状況に合わせた支援の取組を継続する。 様々な特性を抱えた人がいるということを踏まえ、担当の枠を超えが全体で向き合えるよう引き続き連携していく。 【支所】 最新の雇用情報を行政、事業所で共有し、安心安全に働くことができるよう就労先のサポートをしていく。	A	A ・特段の意見なし
	健康福祉課	<b>5.権利擁護の推進</b> 「馬路村成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、虐待を含めた支援を必要としている人の権利擁護や意思決定を社会全体で支援するため、法律・福祉・医療などの関係機関と連携して、権利擁護と成年後見制度の利用促進に取り組めます。	【福祉】 障害・高齢・地域福祉の各担当間での支援体制が構築できている。 成年後見制度ブロック協議会にて制度理解に向けた意見交換を行った。また、包括支援センターによる住民向けのセミナーも開催。	【福祉】 引き続き制度利用のニーズに対応できるように、情報収集を行う。	A	A ・特段の意見なし
	健康福祉課	<b>6.再犯防止活動の推進</b> 「馬路村再犯防止推進計画」に基づき、犯罪や非行をした人が社会復帰後に地域社会で孤立しないために、国・地方公共団体・民間協力者が一丸となった「息の長い」支援の実現に取り組めます。	【福祉】 保護司による「社会を明るくする運動」の広報や、活動拠点である厚生保護サポートセンターの運営支援を行った。また、犯罪や非行のきっかけとなる生活困窮や孤立といった状況を防ぐため、各関係機関との相談・情報共有に努めた。	【福祉】 取組を継続する。偏見の解消に向け人権意識の涵養を引き続き行うほか、総務課や教育委員会と連携した研修、講演会を実施し、住民への啓発も行う。	B	A ・自己評価をB評価としているが、対象者がいないという外部要因によるものであるため、A評価とする。
	健康福祉課教育委員会	<b>7.自殺対策の推進</b> 「馬路村自殺対策計画」に基づき、誰もが自殺に追い込まれることのない馬路村の実現をめざして、年間自殺者数0人を計画の数値目標とし、関係機関と連携を図りながら、自殺対策に取り組めます。	【福祉】 外部講師を招き、生きづらさ等についてPTAと協力し講演会を実施。多くの教育関係者にも出席いただけた。当事者に寄り添い傾聴できる体制づくりに努めた。また、日頃から高齢者や障害者、母子の支援活動を行いながら、見守り・訪問による対策も行っている。 【教委】 学校では、いじめについての学習会を生徒1回、教員1回開催し理解を深めた。	【福祉】 関係機関と連携した見守り・訪問活動を継続する。また、ゲートキーパーについても研修や講話を含め検討する。 【教委】 教職員の働き方改革に取り組み、SC,SSWの活用により、児童生徒の見守りを行う。	A	A ・特段の意見なし

# 馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
②安心・安全の地域づくり	全課 教育委員会	1.防犯や交通安全対策の推進  警察等関係機関と連携し、防犯についての広報活動を充実させるとともに、地域での声かけや見守り活動を推進していきます。また、街頭指導を中心とした交通安全に対する啓発活動やガードレール、カーブミラー、街灯などの交通安全に関連する施設整備にも積極的に取り組んでいきます。	【総務課】 春、秋、年末年始に実施される交通安全運動期間にあわせ、通学路等へののぼり旗の設置、各事業所等の協力のもと通学路付近における該当指導を実施した。 また、期間中にはバレードの実施や、広報車による村内啓発も実施された。 【建設課】 地域住民から要望のあった、馬路地区村道下追線及び村道朝日出支線第3号線のフェンス取替工事を行った。 【支所】 馬路駐在所の訪問の際、情報共有を行い、防犯対策等について高齢者に伝達をしている。交通安全については、街頭指導による啓発にくわえて地区内パトロールや住民情報による外灯、カーブミラー等の修繕依頼、村道の補修などの整備に取り組んでいる。 【教委】 各村内学校においては、定期的に交通安全教室に取り組んでいる。毎月教職員、保護者による街頭指導も行った。 安芸署による不審者対応訓練も実施	【総務課】 継続して事業を実施する。 【建設課】 地区や住民からの要望により、ガードレールやカーブミラー等の安全施設を整備していく。 【支所】 住民等から寄せられた修繕等の要望や情報については、関係機関や所管課へ取り次ぎ、回答まで行う。 【教委】 取組の継続実施	A  交通安全や防犯対策を継続する。	A  ・近頃、電話による詐欺が増えてきているので、敬老会で特殊詐欺の劇をするなど、高齢者への啓発をお願いしたい。 ・駐在やJA・警察との連携も重要。
	全課 教育委員会	2.防災活動の推進  自主防災組織や団体等の自主的な防災活動をリード・支援し、地域防災力の向上を図ります。住民の防災意識の維持向上に努め、防災グッズや備蓄品、避難経路の確認など家族観での共有を促すよう啓発活動に取り組めます。また、異常気象時には早めの避難を呼びかけ、安心・安全な避難行動が可能となるよう関係機関との連携強化に取り組めます。	【総務課】 ・広報紙に防災に関する備えや啓発の記事を掲載し、村内全体での防災意識の向上を図った。 ・補助金を活用し、避難所で使用される備蓄物や各資器材を追加で整備をし、各自主防災組織に対しては、飲料水や生活水を確保するため、浄水機を整備し、地区ごとの訓練に合わせ取扱いのデモを実施した。 【福祉】 前年度実施した影地区以外の5地区にて防災訓練を実施。一時避難場所での安否確認の方法や、避難所での過ごし方、災害用トイレの使い方、防災食の献立等を確認した。 栄養士により防災食の献立を作成、備蓄食の必要数を確認し、ふれあい祭り等で試食会を実施。備蓄内容の検討を行った。 災害時の備えについて2月号広報に掲載し、住民への周知を行った。また職員に対してアンケートを実施し、職員の防災備蓄の状況及び意識調査を行った。 【支所】 能登半島地震の災害報告から、地域が主体的に動くことができるよう、住民、消防団を中心に福祉課、看護師がサポートしながらエアータントの設置や、簡易トイレの使用、補食やローリングストックの重要性などの共有を行った。 【教委】 学校では地震2回、火災1回、Jアラート、シェイクアウト訓練を実施し、災害に備えている。	【総務課】 ・浄水機に対応した貯水タンクや、蓄電池等の物資を整備予定。 ・村全体での防災訓練を実施し、整備した資器材の使用法習得や、訓練をとおして住民同士の関係づくりにつなげる。 ・事前復興まちづくり計画の策定準備を実施予定。 【福祉】 体育館備蓄品の整理を行い、影地区自主防災組織と情報の共有を行い訓練を実施する。 総務課と協力し各地区から災害対策本部への情報伝達の方法を確認し訓練を行う。 【支所】 自主防災会を中心に、防災訓練の実施計画を立て、地域が主体的に活動できる避難所運営や炊き出し訓練などの訓練を行う。 【教委】 学校教育での防災訓練の継続。学校施設、集会センターうまなびにおける避難所運営に健康福祉課と連携し取り組む。	A  南海トラフ地震に備え、対応・連携の強化を行った。避難所開設訓練を引き続き実施するほか、村内イベントの場での防災資器材の使用や講演会実施による防災意識の啓発にも引き続き取り組んでいく。	A  ・特段の意見なし
	健康福祉課	3.災害時避難行動要支援者対策の推進  災害時避難行動要支援者名簿(個別避難行動計画含む)の見直し・更新を定期的実施します。対象者の近隣住民や民生委員・児童委員、関係機関とも情報を共有するとともに、避難訓練等を通して、いざという時にも適切な対応が可能となるよう体制整備に取り組めます。	【福祉】 災害時避難行動要支援者名簿について見直し・更新を実施。更新したものについては、各地区長に共有を行った。朝日出地区では、要支援者も防災訓練に参加することができた。 福祉避難所マニュアルの更新、必要様式の準備を行った。更新したマニュアルをもとに社会福祉協議会と共に福祉避難所開設訓練を実施した。	【福祉】 災害時避難行動要支援者名簿の更新及び関係機関との情報共有を行う。 福祉避難所開設運営訓練の実施。	A  作成、関係機関での共有を行っている。今後も見直しと更新を続けるほか、避難訓練等、広く活用した取組を検討する。引き続き、可能な限り自主防災組織と情報を共有し、いざという時にも適切な対応ができるよう体制整備に取り組む。	A  ・特段の意見なし

馬路村地域福祉計画評価シート(令和7年度)

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は(数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和8年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
③多様な福祉ニーズへの対応	全課 教育委員会	1.包括的な支援体制づくり  行政や社会福祉協議会、診療所、中芸広域連合(地域包括支援センター)で構成する支えあいネットワーク会議を中心とした包括的な支援体制を強化し、すべての村民が生涯安心して暮らすことができるよう一体となって取り組んでいきます。	【福祉】 支え合いネットワーク会議を継続して実施し、子どもから高齢者まで安心して暮らせるよう各関係機関だけでなく村内事業所にも協力いただき不安のある行動や生活の様子について情報共有を行い必要なサービスの検討、つなぎを行っている。緊急通報装置設置による見守り体制については継続して実施。 【支所】 住民が安心・安全に暮らすことができるよう、行政や集落活動センター、社会福祉協議会、診療所、中芸広域連合、消防や駐在所などと連携し情報の共有と支援に継続して取り組んでいる。 【教委】 手話教室や、社会福祉協議会の福祉授業、要保護児童等への研修など、理解を深めている。	【福祉】 情報共有を引き続き行い、適切なサービスに早期につなげられるよう取組を継続する。 【支所】 住民が魚梁瀬で安心して暮らすことができるよう、新たな課題や要望に対応できる体制づくりと、関係機関で情報共有と連携により取組を強化していく。 【教委】 福祉教育授業の継続	A  支え合いネットワーク会議を活用し、情報共有と支援の取組を行っており、緊急時の対応等の情報も共有できている。担当課に関係なく、気になる様子を見かけたとき等の連携を取れるよう引き続き取り組む。	A  ・特段の意見なし
	健康福祉課 地域振興課	2.福祉サービスの充実  地域住民の新たな課題への対応や現行のサービスを充実させるためにも、地域おこし協力隊や特定地域づくり協同組合等を活用し、福祉に従事する人材の確保に努めます。また、馬路村社会福祉協議会との連携を強化し、求められる多様な要望にも柔軟に対応できるよう体制づくりにも取り組めます。	【福祉】 特定地域づくり協同組合からの職員派遣を受け、あったかふれあいセンター事業やデイサービスセンターの充実につなげることができた。また、課内に看護師を配置したことにより、訪問を強化することができ、つなぎや生活実態把握が進んだ。 【振興】 特定地域づくり事業を活用し、あったかふれあいセンター事業の補助員やデイサービスの調理員として人材派遣を行い、福祉事業の人材確保が図られました。	【福祉】 介護・福祉従事者の獲得・定着支援について、社会福祉協議会のみならず県・広域連合等広く連携し、サービスの維持充実に取り組む。 【振興】 引き続き人材派遣事業を行うことにより、福祉事業の人材確保に努めます。	A  特定地域づくり協同組合で採用した1名が引き続き福祉サービスに従事している。福祉事業単体では雇用が困難になっているため、今後も組合を活用しながら定着へのフォロー、また新規雇用に向けても取り組んでいく。	A  ・今年度は診療所体制の確保が難しい中でも上手く連携が取れていた。次年度も引き続きしっかりお願いしたい。